

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきGHの役割を意識しながら実践している。	法人理念に基づき基本方針を掲げている。新人研修・毎日の引継ぎなどの機会にリーダーより伝えている。グループホームの役割、職員各々の役割・目標を持ち、個々の対応の中で家庭的な雰囲気できめ細やかな対応に心がけている。	基本方針は出来ているが、外部よりの来訪者にホームとしての理念が理解しづらい。地域に密着した理念を現状のケアを踏まえ検討されることを提案したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日近隣へ散歩に出掛け顔なじみにやれるようにしている。また地域への活動にも参加している。	地区の運動会やお祭り、清掃などに職員と入居者の方々が共に参加している。併設の老健で地域住民の方々を招待した夏祭りには地域住民として参加している。職員の働きかけや回覧板を利用して住民の方との「交流会」を企画・開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や介護の現場で培われた技術や知識を家族会などを通じて還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度入退所状況から行事報告を行ない、そこで出された意見は早急に検討し全スタッフに周知し対応している。	二ヶ月に1回運営推進会議を開いている。議題は、その時々の問題点等(行事の件や新型インフルエンザなど)を施設長より提案し話し合いがもたれている。地域の情報も委員の方々から聞き、毎日の生活につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市町村と連絡を取り意見を取り入れている。	活動報告書を提出する時に、ホームのことや入居者の現状などを話したり、相談したりしている。長期の入院等による空き部屋にショートの利用が可能になり、情報を頂くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯または入居者の状況に応じて危険回避を含めて行なうことがあるが寄り添うケアを実践している。	身体拘束はしていない。玄関の鍵はすぐ横に川があるため家族の理解を得た上で施錠している。身体拘束については職員は弊害を認識しており、ケアの工夫で対処している(ベットを低くしたり、その脇に布団を敷き怪我防止をしたり、見守りの強化など)。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・勉強会・マニュアルの整備		

医療法人博人会 桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施検討		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接を含めご本人の理解が深まる様できる限り情報収集に努める。(自宅へ伺う)新たな生活へ向けて不安や要望出来るだけ解消し、十分説明し同意書を頂き対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・面会時にて頂いた意見を基に業務やケアの変更を行なっている。	毎月、職員が心温まるお便りを出している。印象に残った生活や現状の報告が分かりやすく書かれており家族の元に送付されている。	2ユニット同士お互いの良いところを取り入れる意味からも、家族の集まる機会を設け、意見・要望等を運営に取り入れるような仕組みが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的に行ない意見の集約に努め新たなケアの方向性を検討する。家族やNs・上司へ相談しケアや業務に生かせるようにする。	現場職員は日頃感じたこと、提案など主任を通じて話したり、三ヶ月に1回全員参加のモニタリング時に発言している。お互い意見を出しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給あり 賞与あり 時間内に業務が終了する様改善等随時行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修報告を行ない情報の共有に努める。なるべく研修に参加出来る様配慮。リーダー研修参加者を中心に知識を広げ実践できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修 GH連絡会への参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人に施設を見学して頂き入所後のイメージが沸く様している。入所までは窓口を一本化し対応、顔なじみになれる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等伺いながらGHとして出来ることを明確にし(業務の見直しも含め)協力体制の確立をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具の購入の対応が多く、業者に連絡し、ご本人を含め用具の選定をし納得の上購入出来る様支援している。他施設の紹介は連絡先等お伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人間関係が築いていける様食席の配慮、スタッフが重点的に関わり少しでも早く馴染める様にしている。その方の得意な事を教えてもらう等有用性を高め役割を持った生活をして頂けるようにする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を定期的にお知らせしている。ご家族の役割を明確にし関係性を継続していけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はない為面会はいつでも対応出来る様にしている。(TEL支援含む) 行きつけの美容院へ行けるよう支援している。	家族の訪問は1週間に1回ぐらいの割合で行われている。また入居者の外出・外泊の支援を積極的に行っている。入居前のお友達が毎日のようにホームへ訪れ関係を維持している入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良し悪しを早い段階で見極め、複数での関わりを通し人間関係を無理なく作れる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が希望され足を運ばれば今までと変わらない対応をしている。他施設に入所されるとこういった希望はあまり聞かれない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅での日課・習慣・生活暦を通しGHでどのような生活を望まれているのか？ご本人やご家族と相談し決定している。	生活暦の調査で入居者の以前の生活を把握出来ると考え、家族が訪問した時や、入居者の日々の生活からの会話で知り得た情報をその都度書き足している。耳の聞こえない方には文字で書いて会話したり、表情から読み取ることによりきめ細かいケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族・親戚・CMより常時間き取りを進めよりご本人の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を基にGHでの日々の様々な活動から観察し新たなケアへの取り組みへつなげられる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の意見を聞きながら日々ケアしているスタッフの意見をスタッフ会議で合わせて定期的に話し合い家族より承認を頂いている。必要に応じて見直しができる様家族へも連絡を入れている。	入居時、本人や家族の希望を聞き作成している。三ヶ月に1回全職員参加でモニタリング会議を開き見直しをしている。状況が変化した時、家族より希望があった時などは、随時、家族・所長・責任者で話し合いをして変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は個々で必要となる情報の記載を多くしその方の全体像をつかみまた、発生した問題をきちんと記載し経過が追えるようにしている。(家族や他入居者との事内服薬・ケアの変更、CPの評価)また申し送りノートの活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHでの生活が困難になった場合状況に応じ併設の老人保健施設・デイケア居宅介護支援事業所の紹介等必要に応じ行なっている。		

医療法人博人会 桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容師・ボランティア・大当区との交流・地域包括支援センター		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医の確認を行なっている。Ns中心に必要な情報の提供(情報提供書作成)を積極的に行ない適切に受診できるようにしている。	入居前からかかりつけ医として診て頂いた先生が一番本人を理解していると思われることから、原則としてかかりつけ医の変更は行っていない。受診時にはホームより「情報提供書」を出している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化・内服薬の変更・ケアの見直し等ある場合その都度相談しNsの指示を仰ぎ反映出来る様にしている。(緊急時はTEL)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関あり Ns・担当者がHPへ出向き今後の検討をしたり、情報の提供をしたり受け入れ先の確保等の協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算による看取りの指針に沿い家族へ状況報告をこまめに行ない現状認識を一致させGHとして出来ることを確認し今後の状況の変化に応じ検討を重ねていく様にしている。	施設長より入居時の契約説明で看取りは行わないことを伝えている。毎日の生活の中で看取りまでの段階を責任を持って対応するよう心がけている。看取りの指針書に沿い行動している。現状をいかに長く保ち、その人らしい生活がいかに維持出来るかに配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習会を行ないいつ何時であっても万全の対応が出来る様な体制をとっている。(救急車の呼び方など確認も随時している)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土地柄水害が多い為地域の方々と協力体制をとり年2回の防災訓練など行ない備えをしている。(防災訓練は夜間想定もあり)	1年に2回の訓練が行われている。夜間想定訓練も、地域住民の方の参加を得て行われている。水害の時は2階へ移動するよう具体的な手順が決められている(数年前水害が起きた地域)。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助指針 生活歴をしっかりと把握し、それぞれに合った声かけや関わりが出来る様に心がけている。	職員が入居者の生活歴を把握することが重要と考え実行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを活発に行ないどんな希望を持ちどうしたいのか？ どんな事に気を遣っているのか？を把握し思いや希望の表出がしやすい雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴・趣味・生活パターンを重視し在宅での生活を引き続き出来るところは実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関してカットは施設に美容師の訪問ありパーマやカラーリングは家族に外部の美容室へ連れて行ってもらう。顔そりはスタッフでも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人の入居者に偏らない様個々の能力に応じながら当番制にてお手伝い頂いている。また個々に出た意見をもとに献立を考えるようにしている。	入居者の方々に前準備をしていただいている。皮をむいたり、切ったり、テーブルの準備など出来ることをやっていただいている。プランターで野菜を作っている。施設長が1週間毎、各ユニットで入居者の方と食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食のバランス・生活歴を考慮しNsへも相談し摂取量を決めている。水分摂取が苦痛にならない様様々な飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	環境を整え個々が安心して行なえるようにする。毎食後個々の状況に合わせて行ない、残渣チェック・磨き直しもしている。		

医療法人博人会 桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者1人1人の状況を具に把握し家族の了解を得て必要な物を使用し自立を促す様努めている。リハビリパンツなど使用してもWC誘導は個々の状況に合わせて行なう。履き替えの支援も毎日行なっている。	ほとんどの方が自立で、職員が声掛けを行っている。夜間の心配な方のみポータブルトイレを部屋に置いているため、安心して眠ることが出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のメカニズムを理解し出来るだけ自然排便に近い状況を作り出せるよう水分・運動・食事等多方面からのアプローチをしている。水分量をチェックしている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴・遅めの入浴希望など希望を聞き入浴の順番を決めている。季節に応じた入浴の提供も行なっている。	原則として週三回の入浴としている。個々の希望で毎日入浴する方もいる。また、入浴を嫌う方たちへの対応を個々にしている。散歩から帰りその流れで入浴する方や、併設老健のお風呂を利用したり、季節の菖蒲湯やゆず湯にしたりして工夫を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備(寝具の調節) 温度・湿度を管理し、TVの音やその他の生活音を出さない様気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Nsに任せきりにせず全スタッフが把握出来る様一覧表を作成している。内服変更時はいつも以上に情報収集に努めDrにつなげられる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・クラブ活動に力を入れ余暇の充実を図っている。また家事活動等の役割を担ってもらっている。ご本人の嗜好品を冷蔵庫にて預かり希望時に出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日1回の散歩、行事として出来る限りいろいろな所へ行ける様にしている。外出行事は人手が必要なので今後家族の協力も得られる様検討したい。	お天気の良い日は毎日近所を散歩している。雨降りなど天候が悪い時は併設老健の廊下を歩き、足腰のリハビリにしている。「買い物デー」を設け買い物に出かけている。	「買い物デー」が設けられているが回数が多いことから、特別メニューなどでの食材の買出し時に入居者の方も同行し、品物を選んだり買ったりして、楽しむ機会を更に広げていただきたい。

医療法人博人会 桜グループホーム・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力低下の為持たせていない。買い物に出掛ける機会を作りお金の使用に関しての支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELの代行(掛けるのみ) 手紙の受け渡し行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯のチェックを随時行なっている。毎日の掃除に加え消臭スプレーの設置あり。花や季節の飾りで季節感を感じてもらえるよう工夫している。またクラブ活動での作品を展示している。	2ユニット間でお互い入居者にあつた生活の場作りがされている。レクリエーションで創作した書や押し花の絵作り等が飾られていた。食堂のテーブルのほかにソファが置かれ入居者の思い思いの場所で過ごせるようになっている。庭で育てた花が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは皆さんでお話しが出来るスペースがあったり、入浴後涼めるスペースがある。ソファを活用し大勢で過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時使用していた馴染みの物での環境作りを家族にお願いしている。GHでの作品や写真を飾り自分の居場所だと感じてもらえる様働きかけている。	それぞれ持ち込み量の違いはあるが、家族の写真や花を飾ったり、職員とともに整理整頓に携わった住みやすい居室作りがされている。部屋の表札はそれぞれ個々に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置 WCや廊下は車椅子対応の広さ確保。ベットの調整等を行ない安全で自立した生活を支援している。張り紙や名札を目印にしている。		